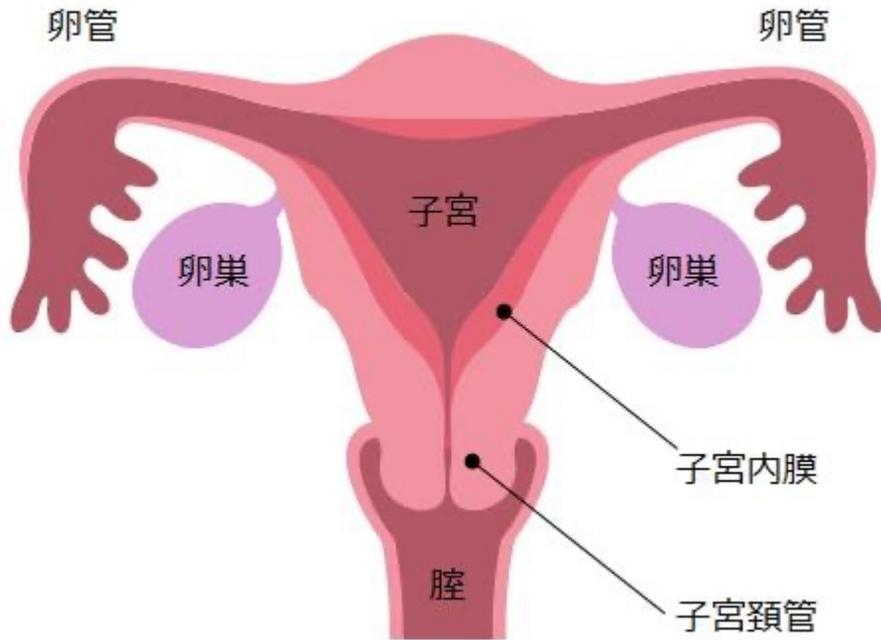


# 妊娠の仕組み

## 部位と役割

お腹の中の臓器には、妊娠するためにそれぞれの役割があります。  
まずは、臓器の場所と役割を覚えましょう。



### 卵巣 卵がある場所

卵巣はうずらの卵大で左右に1つずつあり、毎月どちらかで卵子を排卵します。

### 卵管 卵子と精子が出会う場所

卵管の膨らんだ部分（卵管膨大部）で卵子と精子が出会います。

### 子宮 赤ちゃんを育てる場所

子宮の内側をおおっている粘膜（子宮内膜）に受精卵が潜り込んで着床します。

### 子宮頸管 子宮の内側と外側を結ぶ管

精子が子宮へ入る入り口です。

### 子宮内膜 受精卵が着床する場所

妊娠が成立しない場合はこの内膜が剥がれ落ちて、生理となります。

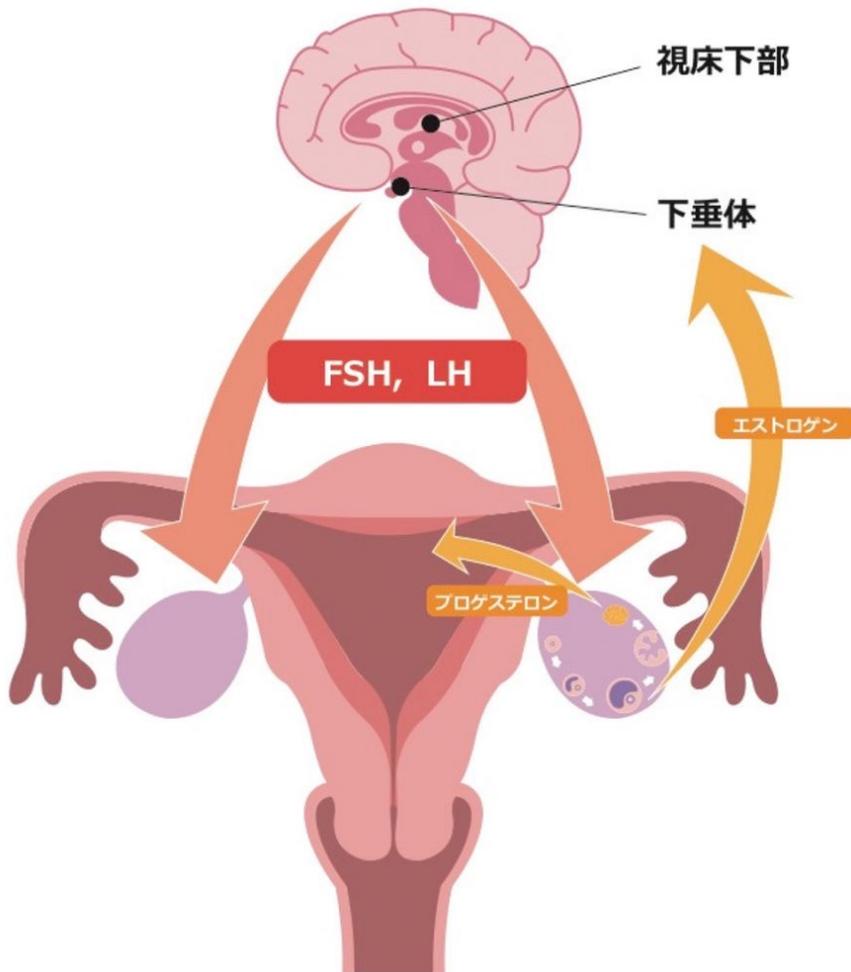
### 膣 放出された精子を受け入れるところ

出産時はここから胎児が出て行きます。

## 妊娠に関わるホルモン

妊娠するための大事なホルモン。

どこから分泌されていて、どんな役割なのかがわかると、診察やカウンセリングの際、先生やスタッフの説明がわかりやすくなります。



### FSH（卵胞刺激ホルモン） 下垂体から分泌

卵子を目覚めさせて、卵子の発育を助けます。

### LH（黄体形成ホルモン） 下垂体から分泌

排卵の直前に急激に上昇して排卵を引き起こします（LHサージ）。

### エストロゲン（卵胞ホルモン） 卵胞から分泌

子宮頸管粘液（おりもの）を増やして精子が入りやすい状態を作ります。

子宮内膜を厚くして、着床しやすい環境を作ります。

### プロゲステロン（黄体ホルモン） 黄体から分泌

基礎体温を上昇させて、子宮内膜に受精卵をさらに着床しやすい状態にします。